

三菱電機グループ
グリーン調達
環境リスク物質含有状況調査回答要領

Rev.C

2005年1月

三菱プレシジョン株式会社 鎌倉事業所
資 材 部

【環境リスク物質の含有状況調査】

第1章 調査方法

弊社納入の資材（部品・材料等）（注）について調査頂き、グリーン調達・調査対象物質（レベル0・・・）（注）を使用成分として資材（部品・材料等）等单位で含有するものについて以下の回答要領に沿って記入回答方お願い致します。（主な対象部材は一般的な用途例（注）を参照願います）

- 注 資材（部品・材料等）
部品・材料・ユニットや梱包材料等、お送りしましたP0010-ディスクに入っております
** 調査データ.xls ファイルに記載されている資材を言います。（** 御社名）
以降、調査回答ツール項目により「部品」と表現していますが、「資材」と同じ意味として解釈してください。
- 注 グリーン調達・調査対象物質（レベル0・・・）
『グリーン調達・調査対象化学物質リスト』参照ください。
- 注 一般的な用途例
『グリーン調達・調査対象化学物質リスト』参照ください。

(1) 対象化学物質の調査について

レベル0 物質（RoHS 規制 6 物質）

RoHS 指令に基づき、後述の「RoHS 適合・不適合」を必ず記入してください。

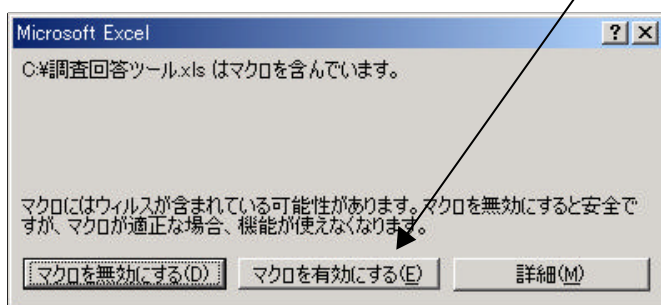
その他の管理対象物質（レベル・・・）

特定の目的で有意に混入させている物質並びにその他の調査により不純物等として含有を確認している物質について記入してください。

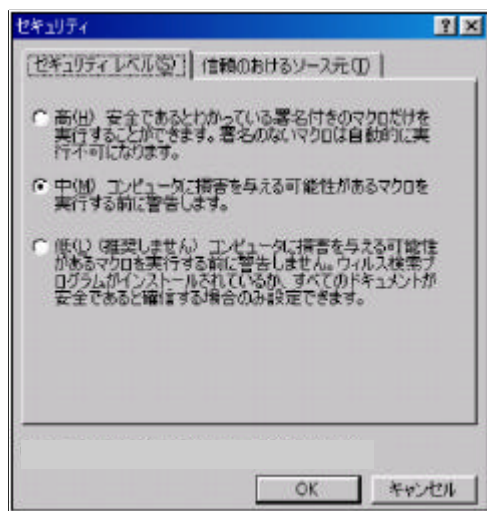
第2章 基本情報調査記入要領

(1) 調査ファイルの起動

ご送付した調査回答ツール「調査回答ツール.xls」を「マクロを有効にする(E)」にして起動してください。



なお、セキュリティレベルの設定が、高（H）となっているとマクロが有効になりません。その場合は、Excelのメニューにある「ツール（T）」「マクロ（M）」「セキュリティ（S）」を選択するとセキュリティダイアログボックス（下記）が表示されますので「中（M）」を選択して下さい。



(2) 基本情報調査（化学物質）シート

起動して頂きますと、以下のような画面が表示されます。

図 2 - 1 . 基本情報調査（化学物質）シート

調査資材リストの読み込み及び貼り付け

弊所よりお送りしましたJGP-ディスク内のファイル「**調査データ.xls」を選択し、読み込んでください。このEXCELファイルの“部品番号”、“部品名称”、“注文番号”のデータをコピーして図2-1.の の部分に貼り付けてください。このシートは、回答記入後JGPファイル(拡張子.jpg)（注）として保存します。ただし、貼り付けられる部品の数は1つのJGPファイルにつき、100個が最大ですので、部品数が100個以上有る場合は複数のJGPファイルに貼り付ける必要があります。

注 JGPファイル

本調査は、グリーン調達調査共通化協議会（JGPSSI）が制定した調査回答ツールを利用します。このツールの保存形式のことです。
部品番号は、弊社が使用している資材コードを記入しています。
部品名称は、今回調査対象の弊社が使用している部品名称を記入しています。

調査対象資材

このようにして図2-1の 部に表示された資材リストが今回の調査対象資材となります。
なお4章にも説明がありますが、作成したJGPファイルを保存する場合は図2-2.の「SAVE JGP」のボタン、呼び出す場合は「LOAD JGP」のボタンを押してください。



図 2 - 2 . 図 1 - 1 の 部の拡大図

ご注意事項

作業途中の保存はエクセルファイルにて保存していただく結構ですが、最終的に調査回答をご送付頂く際は、必ず4章に従い、JGPファイルにてお願い致します。
作業途中の状態では、JGPファイルとして保存しないで下さい。

取引先様情報の記入

基本情報調査（化学物質）シート（図2-1）の 部（図2-3参照）に御社の情報をご記入ください。

LOAD JGP		SAVE JGP		見出し変更	
回答日		2003/10/31		YYYY/MM/DD	
調査先情報		英語		日本語	
会社名		MARUMARU CORPORATION		〇〇株式会社	
DUNSナンバー					
住所		1-2-3-4 Kanda Chiyoda-ku Tokyo 100		100-0000 東京都千代田区神田1-2-3-4	
部署名		Purchasing Department		資材部	
記入者名		Suzuki Ichiro		鈴木 一郎	
電話番号		03-3218-xxxx			
FAX番号		03-3218-xxxx			
E-MAIL番号		xxxxxx@xxxxxx.com			
予備4	COMPANYコード	MRM00			
予備5	記入不要				
予備6	記入不要				

図2-3. 取引先様情報

- a) 会社名：御社の会社名称を英語・日本語でご記入ください。
 b) DUNSナンバー：ご記入不要です。
 （DUNS ナンバーとは、D & B 社が発行した9桁の企業識別コードです。）
 c) 住所：御社の住所を英語・日本語でご記入ください。
 d) 部署名：本調査を取り纏めた部門の名称を英語・日本語でご記入ください。
 e) 記入者名：本調査を取り纏めた部門の責任者名を英語・日本語でご記入ください。
 f) 電話番号：本調査を取り纏めた部門の電話番号をご記入ください。
 g) F A X 番号：本調査を取り纏めた部門の F A X 番号をご記入ください。
 h) E - M A I L 番号：本調査を取り纏めた部門の責任者の E - M A I L 番号をご記入ください。
 i) 予備欄4～6：ご記入不要です。

調査対象部品情報の記入（1）

基本情報調査（化学物質）シート（図2-1）の 部（図2-4参照）に調査対象部品情報をご記入ください。

No	部品番号	部品名称	メーカー名	型番	調査先項目1	調査先項目2	調査先項目3	データバージョン
					RoHS適合・不適合 0:適合 1:不適合	代替品型名	代替品提供 予定日	
1	222001 XXXX-007	チップ固定抵抗	a)	b)	c)	d)	e)	f)
2	AB00-BFG-001	チップセラミックコンデンサ						
3	AB00-BFG-F91102	〇 M O S D 増設						
4								
5								
6								
7								
8								

図2-4. 調査対象部品情報（1）

- a) メーカー名：御社がメーカーの場合は御社名・商社の場合はメーカー名をご記入ください。
 b) 型番：御社が呼んでいるメーカー型番をご記入ください。
 c) R o H S 適合・不適合：その部品が R o H S 指令（注）に適合（満足）している場合は「0」，
 適合していない（満足していない）場合は「1」とご記入ください。
 d) 代替品型名：R o H S 不適合の場合で、代替品がある場合、その型名をご記入ください。
 e) 代替品提供予定日：R o H S 不適合の場合で、代替品が無い場合、提供予定日をご記入ください。
 f) データバージョン：御社でデータのバージョン管理をする場合のみご記入ください。

注 R o H S 指令 : Restriction of Hazardous Substance : 有害物質使用制限指令
 本要領第7章3項をご参照ください。

調査対象部品情報の記入（２）

基本情報調査（化学物質）シート（図２－１）の 部（図２－５参照）に調査対象部品情報をご記入ください。

No	部品番号	部品名称	改訂日 YYYY/MM/DD	調査単位 (個・個)	調査単位質量 g	オゾン層 破壊物質 使用 0:無し 1:有	含有有無 0:無し 1:有	化学物質 入力	化学物質 データ コピー	化学物質 データ 消去
1	ZZZ001 XXX-001	チップ固定抵抗	2003/10/20	個	5.000	0	1	Input	Copy	Clear
2	AB001-EPG-001	チップセラミックコンデンサ	2003/10/25	個	50.000	1	1	Input	Copy	Clear
3	AB001-EPG-F91 V2	CF RVO 50 ジョウ	2003/10/29	個	100.000	0	0	Input	Copy	Clear
4			a)	b)	c)	d)	e)	Input	Copy	Clear
5								Input	Copy	Clear
6								Input	Copy	Clear
7								Input	Copy	Clear
8								Input	Copy	Clear

図２－５．調査対象部品情報（２）

- a) 改訂日：調査対象部品情報のデータ記入日をご記入ください。
- b) 調査単位：プルダウンメニューから調査単位（個・kg・cm²・m²・m³・m・Liter・g）を選択して下さい。
 なお、調査単位としては、貴社より弊社に納入頂く製品単位で含有量をご記入下さい。
- c) 調査単位質量：b) で設定された単位当たりの調査物質の総質量を g で記入して下さい。
- d) オゾン層破壊物質使用：
 製造工程でのオゾン層破壊物質(注) 使用が有の場合は「１」、無しの場合は「０」をご記入ください。
 製造工程で使用している場合は部品・製品への含有の有無に関係無くご回答ください。
 ただし、分析・測定及び商品開発や空調装置等、直接の製造工程以外の使用は対象外とします。
- e) 含有有無：
 グリーン調達・調査対象物質(レベル 0・)の物質を使用している場合は「１」を記入して、
 化学物質調査の入力（第３章）へ、使用していない場合は「０」をご記入ください。
 すべての調査対象が「０」の場合は、ここで調査完了（第４章へ）となります。

注 オゾン層破壊物質

「グリーン調達・調査対象 化学物質リスト」のレベル の管理 NO. 7, 9, 10, 16 及び
 レベル の管理 NO. 19, 39, 40, 41 が対象です。

調査対象部品情報の記入（３）

基本情報調査（化学物質）シート（図２－１）の 部（図２－５参照）に、基板実装部品の鉛フリーはんだ付け対応状況をご記入下さい。

記入対象品：基板実装部品のみ（抵抗、コンデンサ、IC、ル-等。弊社部品番号の上２桁が、50～70のもの。）

ご確認頂く事項：以下の条件を全て満たしている場合は、鉛フリーはんだ付け対応「可（０）」、１つでも満たしていない場合は「否（１）」とご判断の上、「０」又は「１」をご記入下さい。

～鉛フリーはんだ付け対応条件～

a) はんだ付けされる電極或いはリードのめっき仕上げについて

合金組成 Sn-3.0Ag-0.5Cu の鉛フリーはんだを用いた、接合信頼性の評価試験を実施し、良好な結果を取得済みである。

b) 部品の耐熱温度について

前記の鉛フリーはんだの使用を前提として

- ・表面実装部品の場合：ウェーブはんだ付け時の耐熱性評価試験を実施し、良好な結果を取得済みである。（通常、チップ部品で 260℃、QFP(Quad Flat Package)等で 250℃のピーク温度を保証されます。）
- ・表面実装用を除くリード付き部品の場合：ウェーブはんだ付け又はディップはんだ付け時の耐熱性評価試験を実施し、良好な結果を取得済みである。（通常、はんだ槽温度 260℃で 10 秒間を保証されます。）

ご注意事項

下図 2 - 6 に示します
なお、誤って操作をさ
ください。

弊社記入領域

「見出し変更」ボタン

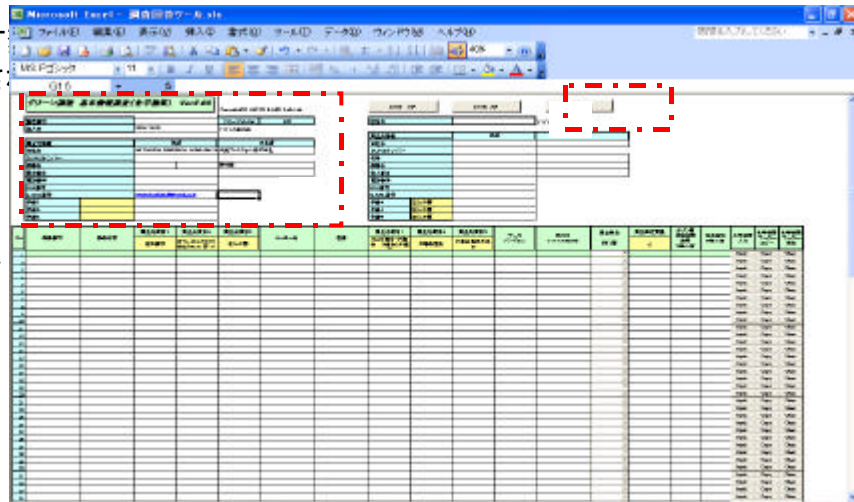


図 2 - 6 . 変更・操作禁止場所

基本情報調査の『調査対象部品情報の記入(2)』の『e)含有有無』で含有している場合についての化学物質の含有状況に関する調査です。原則、グリーン調達・調査対象物質(レベル0・・)に基づく物質群単位です。

基本情報調査（化学物質）シート（図2-1）の部（図3-1参照）に示す「Input」ボタンを押すと化学物質調査（1）シートへ移動します。

図 3 - 1 . 操作ボタン

なお、Other（その他）に、三菱電機グループ独自対象化学物質 20 物質を登録していますのでこれについても
お忘れなくご確認をお願いいたします。

図3-2. 化学物質調査(1)シート

「Input」ボタン：化学物質調査（２）シートへ移動します。
「OK」ボタン：記入データを反映して基本情報調査シートへ移動します。
「CANCEL」ボタン：記入データを反映せずに基本情報調査シートへ移動します。

図3-3. 化学物質調査(1)シート

- | | |
|---------------|----------|
| 例) 2549mgの場合： | 2500mg |
| 1.1456mgの場合： | 1.1mg |
| 0.00214mgの場合： | 0.0021mg |
| 0.1mg の場合： | 0.1mg |

- 図3-4. 化学物質調査(2)シート(カドミウム及びその化合物の例)

- a) 化合物含有量：該当する物質の欄に調査単位（第2章(2)）で設定された単位あたりに含有している化学物質の含有量を mg 単位、有効数字 2 桁（3 桁目は四捨五入）でご記入下さい。

例) 2549mgの場合：	2500mg
1.1456mgの場合：	1.1mg
0.00214mgの場合：	0.0021mg
0.1mg の場合：	0.1mg

ここでは第1章の「含有有無」インプット手続きと異なり、リストにある化学物質を使用していない場合、空欄のままとして下さい。（「0」を入力した場合、「含有あり」と判断されるため0を入力しない様願います。）
製造工程で使用し、最終的に揮発等で製品に残らないものは今回の調査では回答の必要はありません。

- b) 使用部位：含有している化学物質を含有している部位の名称をご記入下さい。
部位の名称は、一般的な名称、または調査先の呼び方でご回答下さい。また、同一化学物質が複数の部位で含有している場合は、主要な部位をご記入下さい。
なお、部品の構成単位となる部位の考え方については第7章をご参照下さい。
- c) 使用目的：含有している化学物質に対しその使用目的をご記入下さい。
例1) 安定剤、可塑剤、着色剤、難燃剤、防錆、はんだ成分等
例2) 主成分、熱安定性向上、電気特性向上、機械特性向上等
例3) 不純物（意図的な含有でないことが明確な場合）等
- 「OK」ボタン：記入データを反映して化学物質調査（1）シートへ移動します。

繰り返し入力作業

- a) 部品が複数の化学物質を含有する場合は、次に入力する化学物質を化学物質調査（1）シートの化学物質群から選択し「Input」を押して、上記 を実施してください。
- b) 当該部品に含有されるすべての化学物質情報の入力を完了した場合は、化学物質調査（1）シートの「OK」ボタンを押して基本情報調査（化学物質）シートへ戻ってください。
- c) 次の含有有無「1」の部品について同様の入力作業を行ってください。
- d) すべての入力が完了しましたら、調査完了（第4章へ）となります。

基本情報調査（化学物質）シートの 部にある「SAVE JGP」ボタン（図4-1参照）を押し、ファイル名称を入力すると、記入されたデータがJGPファイルとして保存されます。

一時保存する場合も同じです。

入力した結果は「回答確認ツール.xls」ファイルを利用して確認ができます。

「LOAD JGP」ボタンを押し、作成したJGPファイル「御社名.jgp」を選択して読み込んでください。

必要に応じて範囲を指定して「編集 - コピー」し、別の E X C E L ファイルに「編集 - 貼り付け」すると編集可能になります。

第6章 調査結果のご提出

第4章にて保存して頂きました「JGPファイル」を

- (1) 電子メールに添付 または
(2) フロッピーディスク等の記録メディアに保存し破損のない状態
にて、下記までお送りください。(極力、電子メールでお願い致します。)

- (1) 電子メールによる受付

三菱プレジジョン株式会社鎌倉事業所 グリーン調達調査回答窓口メールアドレス(「基本情報調査(化
物質)シート」(図6-1参照)に記載している以下のメールアドレス)までご返送ください。

グリーン調達調査回答窓口メールアドレス；greenchoutatsu@mpcnet.co.jp

The screenshot shows a Microsoft Excel 2003 window with the title bar "Microsoft Excel - 調査報告書.xlsx". The menu bar includes "ファイル(F)", "編集(E)", "表示(V)", "挿入(I)", "書式(O)", "ツール(T)", "データ(D)", "ウィンドウ(W)", and "ヘルプ(H)". The toolbar contains various icons for file operations, editing, and formatting. The status bar at the bottom indicates "MSRゴシック", "11", and "400%".

The active sheet is "データ" (Data), which displays a table with the following columns: "項目名" (Item Name), "単位" (Unit), "数量" (Quantity), "金額" (Amount), and "備考" (Remarks). The table contains data for various items, including "りんご" (Apple), "バナナ" (Banana), and "オレンジ" (Orange). The spreadsheet is titled "Microsoft Excel - 調査報告書.xlsx".

図 6 - 1 . 返送先メールアドレス

- (2) 郵送による受付

〒247-8505 神奈川県鎌倉市上町屋345

三菱プレジジョン株式会社 鎌倉事業所 資材部 資材計画グループ グリーン調達調査窓口

第7章 解釈のご説明

1. 使用部位について

- (1) 調査対象が単一電子部品及びその他の部品の場合には、当該部品の構成図面、構成材料リスト等で記載されているものを使用部位とします。

例1) 積層セラミックコンデンサ中のセラミック材料、内部電極材及び外部電極材

例2) 電解コンデンサ中のリード線、電解液、シーリング材及び電極箔

例3) スイッチ中のゴム接点、バネ及びプラスチックカバー

- (2) 調査対象が機器製品、組立て電子部品の場合には、当該部品（製品）の構成図面、部品リストなどに記載されているものを使用部位とします。

例) 積層セラミックコンデンサ、電解コンデンサ、プリント基板、組立て用はんだ

- (3) メッキは1部位として考えます。

例1) 電子部品の足にメッキする半田は、半田として評価します。

例2) クロムメッキのネジは、クロムメッキ部と素材ネジの2部位となります。

2. 含有に関する考え方

原則として、意図的に添加または含むことが明らかな場合は、成分、含有量に関わらず含有と見なします。意図的に添加していない場合は不純物として扱いますが、不純物についても把握しているものは可能な限り記載願います。ただし、新たな分析を求めるものではありません。

ご回答頂かなかった化学物質に関しては、意図的な添加はないと見なします。

- (1) 含有量の算出

含有量は実測値もしくは理論値、計算値、設計値でご回答下さい。製造ロットで含有量に幅がある場合には原則最大値でご回答下さい。なお、部品の含有量の算出にあたっては、製造工程で含有しているものだけでなく、その部品を構成する購入部品や材料に含有する化学物質についても対象にして下さい。

- (2) 金属およびその化合物

金属化合物の含有量は、含有する化合物の量ではなく、化合物の中に含まれる金属元素量に換算した数値をご回答ください。金属元素への換算は、化合物全体の分子量×換算係数で行うことができます。

合金の場合は、合金中の化学物質の含有量を記入して下さい。

例1) 三塩化アンチモン(SbCl_3)100mg を含有する場合のアンチモンの量

換算係数0.534を掛けた値となります。

(三塩化アンチモン) $100\text{mg} \times 0.534 = 53\text{mg}$ (アンチモンの量)

例2) 共晶はんだの場合は、はんだの量ではなくはんだ中の鉛の量をご回答下さい。

- (3) 工程で使用する化学物質

溶剤、洗浄剤、発泡材等、製造工程で使用するが、製品に残留しない場合は記入不要です。

- (4) 以下の商品は、調査対象物質を含有する場合が多いので、十分な確認をお願いします。

- ・ベアリングやレバー等の稼動部分を有する部品に使用のグリス等の潤滑剤
- ・樹脂材料の難燃剤
- ・リード線被覆のポリ塩化ビニルや難燃剤、安定剤
- ・接点の電氣的潤滑等を目的とした特別な金属類（合金）
- ・ベルト、ローラー、ブッシュ、チューブ等のゴム類の添加剤
- ・カラーコードなどの表示塗料

- (5) 同一化学物質が複数の化学物質に該当する場合は、それぞれに該当するとして下さい。

例) クロム酸鉛を含有する場合は、「鉛及びその化合物」と「六価クロム化合物」両方に

鉛および六価クロムの含有量をご回答下さい。

- (6) 含有化学物質調査でのオゾン層破壊物質はあくまでも製品に含有する場合のみ該当となります。

第2章(2) の製造段階でのオゾン層破壊物質の使用についての調査とは異なりますのでご注意下さい。

3. RoHS指令について

2006年7月1日以降、欧州市場に上市される電気電子機器に対し、鉛、水銀、六価クロム、カドミウム、PBB類（ポリ臭化ビフェニール類）、PBDE類（ポリ臭化ジフェニルエーテル類）の含有が禁止される欧州の指令であり、現在、この指令をもとにEU加盟国にて法制化が進んでいます。

RoHS: Restriction of Hazardous Substance：有害物質使用制限指令

(1) 電気電子機器対象範囲

・大型家電・小型家電・IT及び遠隔通信機器・民生用機器・照明装置・電動工具(大型据付けの工業装置は除外)・玩具、レジャー、スポーツ用品・自動販売機（医療用デバイス及びガッリ監視監視及び制御器は除外）

(2) 禁止物質の閾値（質量比）

下表6-1に示す基準により、RoHS適合、不適合の判定をお願いします。また、各含有量の記入は、上記閾値に関わりなく、記入願います。

なお、RoHS指令に基づき閾値母数は均質材料（注）質量とします。

また、前述1項(3)の通り、本調査においては、表面処理（めっき、クロメート処理、コーティング等）は、母材とは別の均質材料とみなし、回答をお願いします。

(3) 高融点はんだについて

半導体等の内部の高融点はんだ（85%以上の鉛を含有するはんだ）は、除外項目のため、それを除いた鉛の値を回答してください。

注）均質材料 物理的にそれ以上単一の材料に出来ない塊と定義されています。（資料「均質材料の考え方.xls」参照）

表6-1. 禁止物質と閾値

禁止物質	閾値
カドミウム	100ppm未満(0.01%未満)
六価クロム、水銀、鉛、PBB類、PBDE類	1000ppm未満(0.1%未満)

【適合・不適合判断方法の例】

例1) 均質材料10mgに鉛0.02mgを含む場合

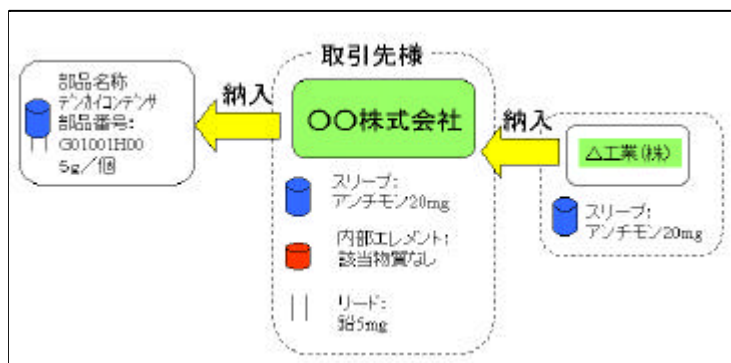
$$\begin{aligned} \text{含有比率(ppm)} &= \frac{\text{均質材料に含有される量(mg)}}{\text{均質材料の質量(mg)}} \times 1,000,000 \\ &= \frac{\text{鉛}0.02\text{mg}}{\text{均質材料}10\text{mg}} \times 1,000,000 = 2,000\text{ppm} \\ 2,000\text{ppm} & 1,000\text{ppm} \text{であるので「不適合」} \end{aligned}$$

例2) 0.005%のカドミウムを含有している均質材料

$$\begin{aligned} \text{含有比率(ppm)} &= 0.005\% \times 10,000 = 50\text{ppm} \\ 50\text{ppm} & 100\text{ppm} \text{であるので「適合」} \end{aligned}$$

例3) 均質材料100mgにPBB類を0.1mgを含む場合

$$\begin{aligned} \text{含有比率(ppm)} &= \frac{\text{均質材料に含有される量(mg)}}{\text{均質材料の質量(mg)}} \times 1,000,000 \\ &= \frac{\text{PBB類}0.1\text{mg}}{\text{均質材料}100\text{mg}} \times 1,000,000 = 1,000\text{ppm} \\ 1,000\text{ppm} & 1,000\text{ppm} \text{であるので「不適合」} \end{aligned}$$



どれか1つの子部品でもRoHS対象物質を閾値以上含有している場合は、RoHS不適合となります。

例) 左図のリードの鉛が閾値を超えて含有している場合は、電解コンデンサそのものが、RoHS不適合となります。

(3) R o H S 規制対象 6 物質の主な用途及び対象除外項目

No.	材料	材料細分類	主な用途	備考(対象除外項目等)
1	カドミウム		電子部品の接点材料 ロウ材 可溶栓 黄銅材 塗料着色顔料(主に赤系)	カドミウム表面処理は除外
2	六価クロム	クロメート処理	防食めっき (鉄製ネジ・ボルト, ヒンジ) 亜鉛めっき鋼板の表面処理	
		クロメート顔料 (ストロンチウムクロメート)	塗装鋼板の下塗塗料	
3	水銀		リレー 蛍光灯 電池(水銀電池)	ランプ1本あたり5mgを超えない範囲 の小型蛍光灯に含まれる水銀は除外
4	鉛	鉛はんだ	電子基板 電子部品 電子部品リードめっき 金属接合一般 (モーター端子, 冷媒配管接合)	セラミック電子基板中の鉛は除外 (ex. P ｓ ｒ ｒ 素子) 高融点はんだ(鉛を85%以上含む 錫・鉛はんだ合金) は除外 陰極線管, 電子部品および蛍光管の ガラスに含まれる鉛は除外。 合金成分としての鉛比率が鋼材中 の0.35wt%以下 アルミ材中の0.4wt%以下, 銅材中の 4wt%以下は除外 スイッチ・シグナル・伝送用・通信管理ネットワ- クのはんだの中の鉛
		鉛合金	軸受 鋼板 快削鋼(Pb量0.3wt%以上) 快削黄銅(Pb量4wt%以上)	
		鉛化合物	塩ビ電線被覆の安定剤 ゴム・パッキン・シールの安定剤 塗料の着色顔料(主に黄色・白系)	
5	P B B 類 (ポリ臭化ビフェニール類)		樹脂成形品及びゴム中の難燃剤	
6	P B D E 類 (ポリ臭化ジフェニル エーテル類)			

対象除外項目に該当する場合, R o H S 適合判断は含有量に係らず「適合」と判断してください。
ただし, 含有量調査(第3章化学物質調査(1)~(2))シートには, 含有量を記載してください。

当調査に関するお問い合わせ

< 調査システム全般に関するお問い合わせ窓口 >

資材部 資材計画グループ

グリーン調達調査窓口

Tel;0467-42-5801

E-mail;greenchoutatsu1@mpcnet.co.jp

E-mail によるお問い合わせの際は, 件名の冒頭に「問い合わせ」とご記載願います。

< 環境保全・化学物質に関するお問い合わせ窓口 >

製造システム部 環境・施設管理課

グリーン調達調査窓口

Tel;0467-42-5802

E-mail;greenchoutatsu2@mpcnet.co.jp

改定履歴

Rev	日付	頁	改定内容
B 版	2005/01/19	4	第 2 章(2) 項の、注 オゾン層破壊物質について、誤記訂正。 正：レベル の管理 NO. 19, 39, 40, 41 が対象です。 誤：レベル の管理 NO. 27, 45, 46, 47 が対象です。
C 版	2005/1/27	1	注 グリーン調達・調査対象物質に「(レベル 0・)」という文言追加。
		1	(1)対象化学物質の調査について その他の管理対象物質に「(レベル ,)」という文言追加。
		2	以下の文章を追加。 <u>ご注意事項</u> 作業途中の保存はエクセルファイルにて保存していただいて結構ですが、最終的に調査回答をご送付頂く際は、必ず 4 章に従い、JGP ファイルにてお願い致します。 作業途中の状態では、JGP ファイルとして保存しないで下さい。
		3	『 部品番号は、弊社が使用している資材コードを記入しています。 部品名称は、今回調査対象の弊社が使用している部品名称を記入しています。』の記載位置を 2 頁第 2 章(2) に移動した。
		3	- b) 「DUNS ナンバーとは、D & B 社が発行した 9 桁の企業識別コードです。」という文言を追加。
		4	QFP「Quad Flat Package」という文言を追加。
		5	弊社記入領域を訂正。(部品番号欄のものが不要であった。)
		7	化学物質調査(1)シート段階での入力(図 3 - 3 参照)

以上